

入間市 幼児教育と義務教育の 円滑な接続を 目指して

国立障害者リハビリテーションセンター
発達障害情報・支援センター
教育・福祉連携推進官 畠山 和也

小1プロブレム

- 小学校1年生の児童が学校生活に適応できないために起こす問題行動（例えば、集団行動がとれない、授業中座ってられない、話を聞かないなどの状態が数か月継続するなど）。
- 小学校入学直後、遊びから学びに生活の中心が変わり、幼児教育から義務教育へ指導内容が一変する段差を乗り越えられないために起こるとされている。

幼・保・小連携の取組（こども未来室事業）

①子ども同士の交流活動

→ 幼稚園・保育園（所）・小学校の交流等

②教職員の交流

→ 幼保小の交流会、幼保小中研修会等

③保育課程・教育課程の編成（接続カリキュラム）

→ 遊びと学びの手引き等

接続カリキュラムの取組

- ・アプローチカリキュラム（幼稚園・保育所等）

幼稚園・保育所での子どもたちの育ちや学びを小学校へつなぐための幼児教育の計画

- ・スタートカリキュラム（小学校）

入学した子どもたちがスムーズに小学校の生活や学びに適応できるように、幼児教育との円滑な接続を意識した小学校入学時の教育課程

→自分のことは自分でする、人とかかわる力をつける、決まりや約束を守る、自分の思いを表現するなど、「生活」「他者との関係」「興味・関心」の視点で教育課程を編成

幼児教育と義務教育の接続

- 幼稚園教育要領(文部科学省)
- 保育所保育指針(厚生労働省)
- 幼保連携型教育保育要領(内閣府)
 - 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
 - 遊びや生活を通して総合的に発達を促す
- 学習指導要領(文部科学省)
 - 教科学習中心
 - 大きな集団での学び

指導・支援方法の再考

すべての子どもたちへ

- スタートカリキュラムをベースに
- ユニバーサル・デザイン・ラーニング

特別なニーズを要する子どもたちへ

- 合理的配慮
- 自立活動

特別なニーズのある子どもたちへの 切れ目ない支援体制

- ・児童発達支援センター・事業所
- ・幼稚園、保育園、認定こども園
- ・保健センター・保健所
- ・子育て支援センター 等

就学前

- ・「障害児支援利用計画」
- ・「サービス等利用計画」
- ・「母子手帳」
- ・「個別支援計画」
- ・「サポートブック」
- ・「CLMの支援記録」

就学中

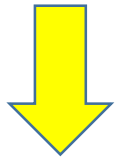
- ・「個別の教育支援計画」
- ・「個別の指導計画」

- ・特別支援学校
- ・小学校(特別支援学級・通級)
- ・中学校(特別支援学級・通級)
- ・高校(通級による指導)
- ・大学(障害学生支援) 等

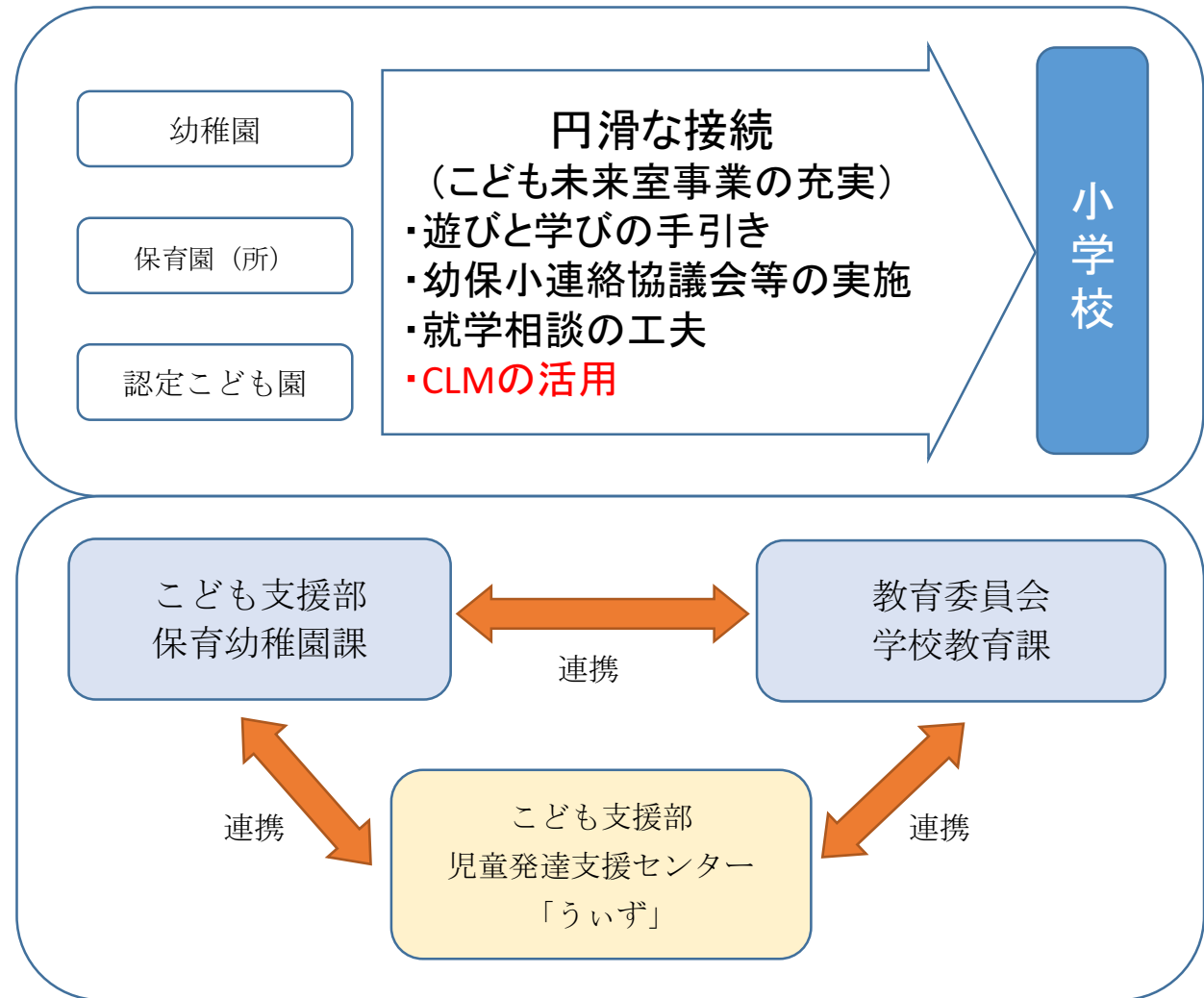
切れ目ない支援体制の整備

目的

〇市の教育委員会とこども支援部との連携
(自治体内の連携体制の構築)



切れ目のない支援体制の整備を図り、より一層の行政サービスの充実につなげる。



体制整備のためのロードマップ

令和3年度の取組

- ・就学前の支援体制の整備として、保育所2園でCLMを実践する
 - 保育園や幼稚園、認定こども園においてCLMを活用し、指導・支援の充実を図る
 - 保育士や幼稚園教諭への支援体制づくりの検討を行う
- ・小学校へCLMの周知を図る

令和4年度以降の取組課題として考えられること

- 就学相談においてCLMの記録がある場合は、引継ぎ資料として位置づけるとともに、小学校向けにCLMの理解啓発用リーフレットを作成して添付する
- 計画的に小学校（管理職、教員）から保育園・幼稚園等にCLMの実践を見学又は実習する研修体制を構築する
- 小学校がCLMを活用する際に、サポート体制を構築する（厚生労働省の保育所等訪問支援事業、巡回相談支援の活用、教育委員会の巡回支援・巡回相談の活用）